

2、アユ種苗確保試験

I 調査目的

河川放流用稚アユの県内自給の見通しをたて、内水面漁業振興の一助とする。

II 調査内容

- 1、調査期間 昭和50年5月～6月
- 2、調査場所 高瀬川（上北郡六ヶ所村平沼地先）（第1図）
- 3、調査担当者 淡水養殖部長 長峰良典
技師 原口健二
- 4、調査項目
 - (1) 稚アユ採捕調査
 - (2) 稚アユ蓄養試験
- 5、調査方法
 - (1) 稚アユ採捕調査
垣網の長さ15m、袋網の長さ6m（片側）の建網を2ヶ統用いた（第2図参照）。
 - (2) 稚アユ蓄養試験
持網製生簀（2m×5m×1.5m）を水深1.2m程度のところに設置し、建網入網稚アユを混獲魚から選別して逐次収容した。

III 調査結果

1、稚アユ採捕調査

稚アユ入網状況は5月12日から6月30日まで調査したが、建網2ヶ統で平日は約200尾程度、大潮時には700～800尾の入網があった。また6月27日以降は水温も上昇し建網に入網する稚アユが見られなくなった。

調査期間中の入網尾数は約13,000尾程度と推定された（第1表）。1日の入網を日周別にみると比較的昼間の漁獲が多かった。

入網稚アユの大きさは昨年と大差はなかったが（第2表）、建網への混入魚種はおおよそ第3表のとおりで、稚アユは約2割程度であった。

2、稚アユ蓄養試験

建網に入網した稚アユを逐次網生簀に収容したが、蓄養開始後3日目頃から斃死が目立ち始め、5日目までにはほぼ全数が斃死するといった状態で蓄養する迄に至らなかった。斃死前の魚体には水カビの附着が認められ脱鱗している個体も多くその原因としては網から生簀収容時までの魚体の損傷、生簀内でのスレ、日周水温、水位および塩分濃度の大きな変動によるものと考えられる。

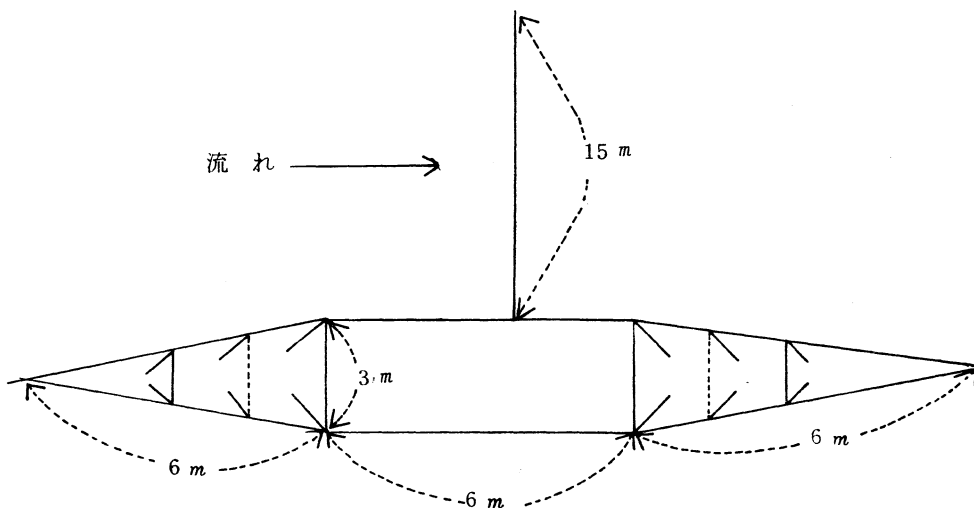
IV 調査の成果および今後の課題

1、調査の成果

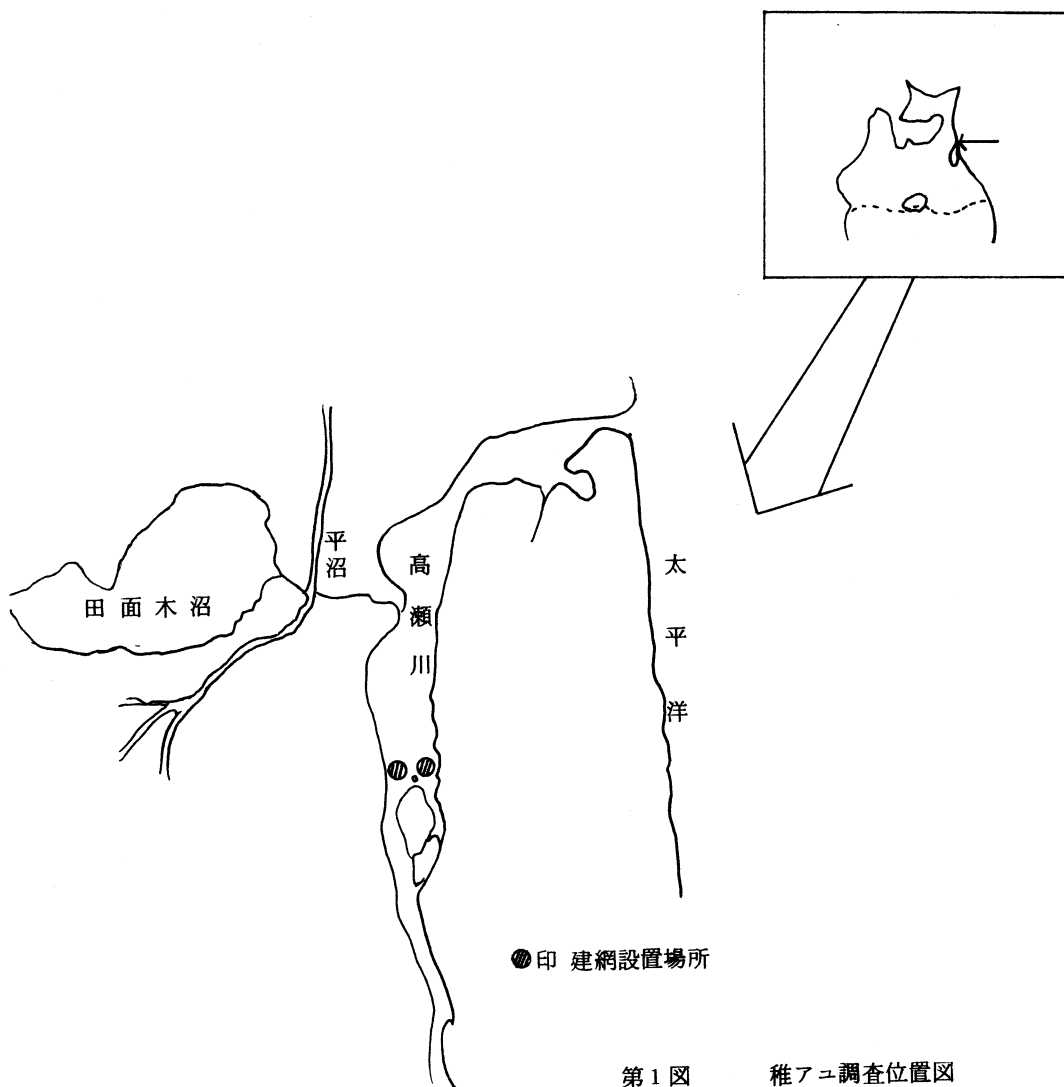
- (1) 高瀬川で建網2ケ統を用いて調査し(5月12日～6月30日), 約13,000尾の稚アユを採捕した。
- (2) 稚アユの入網は大潮時に多く(700～800尾)平日は200尾程度であった。
- (3) 採捕場所近くでの網生簀による蓄養は不適當であることが判明した。

2、今後の課題

- (1) 大量採捕するためには採捕用建網の統数を多くするとともに, 設置地点の選定と大潮時に集中的に行う必要がある。
- (2) 建網の魚捕部を改良し魚体の損傷を少なくする工夫が必要である。
- (3) アユと混獲される魚種を効率的に選別する方法を確立する必要がある。
- (4) 採捕した稚アユは陸上施設に収容し直ちに淡水飼育することが望ましい。



第2図 建網の構造



第 1 表 高瀬川における稚アユ入網状況（概数）

入 網	月 日	建網2ヶ統への1日あたり入網稚アユ尾数	尾 数
5 月	1 2 ～ 1 3 日	2 0 0 尾	4 0 0 尾
	1 4 ～ 2 0 日	1 5 0	1, 0 5 0
	2 1 日	2 5 0	2 5 0
	2 2 ～ 2 4	2 0 0	6 0 0
	2 5 ～ 2 6	8 0 0	1, 6 0 0
	2 7 ～ 3 1	2 0 0	1, 0 0 0
6 月	1 ～ 5	2 0 0	1, 0 0 0
	6	5 0 0	5 0 0
	7 ～ 9	2 0 0	6 0 0
	1 0 ～ 1 1	8 0 0	1, 6 0 0
	1 2 ～ 2 3	2 0 0	2, 4 0 0
	2 4 ～ 2 5	8 0 0	1, 6 0 0
	2 6	1 0 0	1 0 0
	2 7 ～ 3 0	[0]	[0]
合 計			1 2, 7 0 0 尾

第 2 表 稚アユ魚体測定結果

採 捕 月 日	測 定 尾 数	平 均 全 長 (範 囲)	平 均 尾 又 長 (範 囲)	平 均 体 重 (範 囲)	備 考
5 0, 5, 1 2	2 0 尾	6,9cm (5,9 ~ 7,9)	6,4cm (5,4 ~ 7,4)	2,2 g (1,1 ~ 3,5)	
4 9, 6, 1	4 9	6,9cm (6,1 ~ 8,7)	* 5,8cm (5,2 ~ 7,3)	2,5 g (1,0 ~ 7,2)	* 体長
4 9, 6, 2 5	2 0	6,8cm	* 5,4cm	2,0 g	* 体長

第 3 表 混 獲 魚 種

調 査 月 日	魚 種	備 考
5 0, 5, 1 2	ハゼ科 ウブイ サヨリ マボラ イトヨ シラウオ ママガレイ サケ稚魚	混 獲 魚 8 割 アユ稚魚 2 割
5 0, 6, 6	サヨリ 10 尾 ママガレイ 1 尾	アユ稚魚 約 500 尾